



創立151年

わにっこり

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子

和邇小だより 令和6年 11月号

児童数382名 文責 澤村幸夫



キンモクセイ の香り

秋も深まり、木々がだんだんと色づき始める季節となりました。もう11月だというのに、つい先日まで残暑という言葉が聞かれていました。

学校で歩いていると、どこからともなく風に乗ってふわり

と甘い香りが漂ってきます。運動場横にはキンモクセイの木がたくさんあって、オレンジ色の小さな花がところせましと咲いていました。例年より2週間も遅い開花だそうです。香りの強さに反して、花はとても控え目です。毎年、この季節になると、秋の澄んだ空気のおいとしキンモクセイの香りが混じり合って、忘れていた過去の記憶をくすぐります。過去に決断してきたこと、そこから出会った人々や経験してきたことを思い出しながら、自分を見つめ直す機会を与えてもらっています。

キンモクセイ(金木犀)の花が散ったあと、中庭にあるギンモクセイ(銀木犀)が満開となります。キンモクセイの強い香りではなく、何とも控え目で、少し違った甘い良い香りがします。私はキンモクセイの香りも好きですが、ギンモクセイの香りの方が好きです。和邇小学校の先人が植樹された2つのモクセイ(木犀)を比べながら、秋の楽しみをいただいていることに感謝したいと思います。



運動会 2024

10/18



雨が心配されましたが、子どもたちの思いが天に届いたのか、ほぼ降られることなく運動会を開催することができました。多くの保護者やご家族の皆様がご参観くださり、ありがとうございました。

今年は、開会式・閉会式を全校で運動場にて実施するなど、全校児童が一堂に会する機会を多く企画できたことをうれしく思います。この日に向けて努力してきた子どもたちの姿が、頼もしく輝いて、確かな成長を感じました。

猛暑の続く9月に練習が始まりました。日が経つごとに課題達成のために知恵を出し合いました。決して一人では成し得ない、周囲と心を合わせながら、より良いものへと創り上げていくその過程が、実に充実していました。休み時間を費やし、応援の練習に取り組んだ高学年、また、6年生は、役員として、進行や道具の準備、後片付けを黙々と行い、全校を立派に支えてくれました。ダイジェスト版として短い動画にまとめましたので、右のQRコードからご視聴ください。

運動会ダイジェスト

紙面配布のみ表示



期間限定 11/1~11/30

5年オーパル自然体験

5年生は10月2日に「オーパル」に自然体験学習に出かけました。カヌー体験、ドラゴンボート、よし笛づくりをしました。天候に恵まれ、琵琶湖の自然を満喫する貴重な体験ができました。動画にまとめましたので、ご視聴ください。

5年 オーパル

紙面配布のみ表示



期間限定 11/1~11/30



お花学級 ブロック交流会 10/24

お花学級の志賀ブロック交流会が木戸小学校の会場で開催されました。この日に向けて、みんなで協力して劇の準備を進め、当日はすばらしい発表となりました。

3年生 働く人々 10/23

3年生では「和邇のすてきにふれ合おう」の学習をしています。10月23日には駐在所の警察官に来校いただき警察の仕事について学びました。私たちの生活は、このような多くの皆様に支えられて暮らしていることを実感することができました。



和邇小学校の
ホームページ

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。



和邇小学校の夢づくりプロジェクトである「わにっこり☆プロジェクト」が、山場を迎えています。3つの「顔出しパネル」が和邇文化センター、湖西線和邇駅、和邇平和堂に設置されました。



わにっこりティッシュや間違い探し・塗り絵、スタンプラリーが商店街に置かれています。店の



ポスターが完成しインスタグラムの宣伝も進んでいます。街灯には旗が立てられました。地域の「妹子祭り」でのブースも準備が整ってきました。アンケートに答えるとガチャのコインがもらえ、和邇駅にてカプセルをゲットできます。このプロジェクトはまだ続きます。



和邇商店街
Instagram
のQRコード

2年生 京都市動物園 10/4

2年生は京都市動物園に出かけました。獣医さんの話を聞いて、質問したり、グループで協力しながら本物の動物を見てまわったりしました。短い動画にまとめましたので、ご視聴ください。



2年 京都動物園

紙面配布のみ表示



期間限定 11/1~11/30

シリーズ 「未来への扉」 第8弾 「挑戦できる土台」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり

幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思います。

第8弾は「挑戦できる土台」についてです。子どもが失敗してしまったとき、なんと声をかけるでしょうか。子どもの日々の失敗は、大人にとっては、やるこ

ことが増えてしまったり、イライラしてしまったりすることも多いのかもしれませんが。まして、専門職である教師にとっては、その声かけが大事になってきます。「失敗こそ、成長のチャンス」と言われるように、たくさんの失敗こそが、成功のカギであり、トライ&エラー（令和5年夏休み号・冬休み号に掲載しました）を

する中で子どもはいろいろなことが出来るようになっていきます。産まれた時には、寝返りやハイハイ、歩き出して、何度も転んで失敗して、それでも挑戦していく子どもたちです。ちょうど、私の孫が1歳2か月で、毎日出来る

ことが増えています。しかしながら、少し大きくなってくると、失敗を恐れ、挑戦することをためらう子どもたちがいます。



学校のターコイズディスカス
本文との関連はありません。

子どもが失敗を肯定的にとらえるようになるためには、子どもが失敗した時の周りの大人の関わり方が大事だと思います。例えば、子どもがコップに水を注ごうとしたら、こぼしてしまいました。大人はどのように声をかけるのでしょうか。「あーあ、またこぼして!」「できないのなら、やめて!」「なんでこぼしたの!」と言いたくなります。そんな時は、子ども自身も「やってしまった」と心の中で思っています。どうしようかと自分なりに考えている時に、誰かに指摘されてしまうと、ドキッとしたり、大人が思う以上に心が傷ついてしまったりします。次に挑戦する時に、そのことが原因でやりたくなくなったり、こわくなったりしてしまうこともあります。よく、この子はやる気がないとか意欲がないという話を聞きますが、もしかするとこういった幼少からの関わりが影響しているのかもしれません。

子どもが挑戦するとき、周囲の大人にできることは、失敗しないように先回りしたり、口出ししたりすることではなく、我慢して見守ることです。子どもの失敗に気づいても、まずは信頼し、声かけを我慢して、自分でどうするかを観察することです。すると、子どもなりに対処法を一生懸命考えていきます。先ほどのこぼれた水であれば、こぼれたものをじっと見ていたり、コップに水をもどそうとしたりします。ここで、大人がすぐにタオルでさっとふいて「まだできないのだからやらないで」と言ってしまったら、子どもの心を傷つけるだけでなく、知らないうちに、自分で考え、行動する機会まで奪ってしまうことになります。対処法を教え、一緒にやってみたら、次からは変わるかもしれません。

水をこぼしたケースは、1つの例にすぎませんが、幼少期から小学生でも、まったく同じだと思います。日常の生活の中で、失敗はつきものです。失敗は、決して悪いことや恥ずかしいことではありません。失敗することで、そこから学ぶことはたくさんあります。自分で失敗から学び、新たなチャレンジを繰り返していく、その経験こそが子どもの育ちにつながっていきます。生まれながらにもっている、自分でやってみ

たい気持ちを、大人の態度でやめてしまわないように、むしろ、何でもやってみたいと思う子どもに成長できるよう応援していきたいと思

います。子どもは、自分の成長したい部分を自分自身が一番知っている

のかも知れません。



学校のアクアマリンネオンテールグッピー
本文との関連はありません。